

# 平成27年度第2回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

(文責：事務局)

日 時：平成27年12月16日（水）午後3時～5時

場 所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室3

出席者：委員9名、オブザーバー2名、事務局18名

## (開会)

### 1 あいさつ

#### ○愛知県振興部長

今年は県と沿線市が平成21年に策定した「リニモ沿線地域づくり構想」が取組の目標年次を迎えることから、リニモ沿線の将来像を見据え、今後5年間にわたり重点的に取り組むべき施策をとりまとめている。

本日の会議では、第1回会議でのご意見を参考にしながら作成した「リニモ沿線地域づくり重点プラン2016-2020」について、委員の皆様からご意見を賜りたい。

当プランについては、来年1月頃からパブリックコメントを行い、2月末頃に策定し、来年度から具体的な取組を進めていきたいと考えている。

### 2 議題

#### (1) リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況について

○事務局から資料1～4の説明

#### 【委員・事務局発言要旨】

##### ○矢嶋委員

資料2でリニモ利用者数が増加した原因の1つとして、人口がどれくらい増加しているかという数値を把握していたら教えていただきたい。

##### ○交通対策課

具体的な数値まではつかんでいないが、沿線の周辺1km以内で、長久手市の人口推移をピックアップしてみると、そんなに大きな伸びではないが、数%は着実に伸びつつあるように見受けられる。

##### ○瀬口委員長

資料2を見ると、通勤定期は少しずつ増えているので、そういう意味では定住者が増えているのではないかということが伺える。

##### ○地域政策課

補足だが、リニモ沿線地域づくり構想の対象エリアの人口は、策定した平成21年時には1万2千3百人ほどであったが、平成27年には1万3千5百人ほどに増加した。

○亀倉委員

資料2はリニモの乗降者数が中心となった状況報告だと思うが、定住人口と、今回の都市緑化フェアなどのイベントを通じて外部からお客さんが来てくれる交流人口を何かの形で切り分けすることにより、リニモの利用者数の推移が比較的に見やすくなるし、定住人口に対する通勤・通学客の定期の発行状況なども把握でき、細かなアプローチが可能になるのではないかと思う。

○瀬口委員長

定期外には交流人口に該当する人が含まれているので、この中身を仕分けられれば、委員のご指摘のことができるだろう。

○亀倉委員

こうしたデータが把握できれば、これから市街地整備がさらに進むと、増えた人口に対してどのくらいのリニモ利用者の増加が見込めるのか、という数値のはじき出しなどにつながるのでは良いのではないか。

○島田委員

先ほど事務局が言われた1万3千5百という人口は、構想の地域、つまり長久手古戦場駅から東の地域の人口だと思うが、当初需要予測をした3万1千だとか、3万1千5百という需要は、藤が丘、はなみずき通駅の人口を大変多めに含んでいるらしい。

藤が丘は駅から2km圏の人口で需要予測をしたと記憶しているが、実際に藤が丘やはなみずき通、長久手古戦場駅周辺の市街化区域でかなりの人口増加があり、その人達がある程度リニモを利用しているのではないかと思う。

この構想の範囲は長久手古戦場駅から東の範囲だが、元々の出発点の需要予測でいえば、藤が丘駅周辺も含めて沿線の人口がどう増え、その人達がどうリニモを利用しているかということだと思う。

○瀬口委員長

事務局はこれらのご指摘を参考にして、分析を進めていただければと思う。

(2) リニモ沿線地域づくり重点プラン 2016-2020 (仮称) の案について (意見交換)

○瀬口委員長

プランの説明の前に、まず前回の会議において、委員からご質問をいただいた主なものについて、補足説明をお願いします。

説明いただく項目は、長久手市から「子育て環境が1番の理由」と「区画整理等の開発と優良農地の保全について」、愛知高速交通㈱から「リニモ定期券の多様化について」である。

○長久手市 (経営管理課)

子育て環境1番というのは、日本経済新聞社が人口千人当たりの小児科医、産科・婦

人科の医師の数や、合計特殊出生率、人口増減率といったデータにより、長久手が子育てのしやすい街として紹介されたことだと思う。

長久手市は昭和47年から計画的な区画整理事業を進めており、良好な住環境を整備してきた。現在でも、市全体で年に千人ほど人口が増加しており、全国的にみても高い伸び率だと思う。

増加の要因としては、子育て世代など若い方が家を建てられたり、マンションに越して来られたりすることで、それに伴い小児科、医療機関も充実してきたということかと思う。過去の努力もあるが、恵まれた立地により、環境に乗って、子育て環境1番に選ばれたと考えている。

#### ○長久手市（区画整理課）

前回の会議において、市街地開発をどんどん進めていけば優良農地が減っていくが、住みよい街づくりには農との触れ合いも必要であるし、福祉の面からは高齢者の方も生きがいが出てくるということもあるのではないかというご意見を賜った。

長久手市は、名古屋近隣の優良な宅地として、計画的に区画整理事業を進めてきた。市の西側の市街化区域の8割が区画整理事業で進めてきたものであり、現在では整然とした閑静な住宅街が広がっている。市の東側は市街化調整区域であり、市の原風景となる雑木林や田園風景が広がり、これもまた市の豊かな自然環境としての魅力であると考えている。

しかし、この豊かな自然風景も、昨今では農家の高齢化や担い手不足という問題があり、現状では耕作放棄地の増加、里山里地の荒廃といった部分もあるので、保全が必要であると考え、市の田園バレー基本計画をこうした実態に合わせて平成25年に一部改訂した。

現在の産地直売所を中心とした新鮮で安心な野菜栽培による地産地消、有機栽培といった高付加価値農業や都市部の市民が農に触れる里山里地を利活用した体験道場の推進、障がい者の就労場所の1つとして、農と福祉の連携による環境保全型の農業や、新規就農者を中心とした多様な担い手の育成。こういった様々な人、様々な農のあり方で、農地、里山を利活用し、本市の魅力として緑の適正な保全をしていきたい。

また、市街化区域内においても、農のある暮らし、農との触れ合いが必要であると考え、誰でも身近に農に触れられる街づくりを目指し、遊休農地や空き地を利用しながら、多様な市民が農作業を通じて交流するコミュニティ農園といったものの設置も進めていきたい。

#### ○愛知高速交通㈱

定期券の多様化ということで、具体的には学生が地域活動に参加する夏休み、冬休みは定期がなく大学の地域活動に参加しづらいので、長期休暇用定期などを作ってはどうかというご指摘であった。

弊社としては、既存の通学定期の活用をぜひお願いしたいと思っている。その理由としては、現在の通学定期は普通運賃の6割引ということで、既に非常に格安な状態になっており、運賃サービスという点ではかなりの水準になっている。

また、地域活動という通学区間以外のところへ行くことになるが、平成 26 年 10 月 1 日から通学定期の適用範囲を拡大しており、学生であれば利用目的を問わず、区間も自由に通学定期が購入できるように変更した。これは名古屋市交通局も同様にやっているのので、この制度を使えば、例えば、名古屋市内の学生が長久手で地域活動をしたい場合、通常に通学区間でなくとも格安の定期を購入できるので、利便性が向上したのではないかと考えている。

ただ、今回ご指摘もいただいたので、より利用しやすい通学定期のあり方については、引き続き研究していきたいと考えている。

○瀬口委員長

それでは、次にリニモ沿線地域づくり重点プラン 2016-2020（仮称）の案について事務局からご説明いただきたい。

○事務局から資料 5 の説明

**【委員・事務局発言要旨】**

○井沢委員

色々なことを考えているが、全部実施するのは中々難しいと思うので、優先順位などの考えがあればご説明いただきたい。

○地域政策課

今回 5 つの戦略と 15 の主要施策ということで、県と市が取り組むものを記載している。協力して取り組むもの、それぞれが単独で取り組むものがあり、15 の優先順位はつけられない。

今回のプランは、市街地整備については現在進行してるものを継続しつつ、交流人口に軸足を置いて取り組むというものであり、15 の施策に優先順位はない。

○井沢委員

市街地整備については、現在進行中のものを優先して進めていくということでしょうか。

○地域政策課長

優先順位というより、ある程度並行してやっていきたいということ。また、今回新たに実施していくものとして、観光という側面から広域観光モデルルートやリニモ体感ツアーなどの新しい取組が入っているということを補足させていただく。

○瀬口委員長

県と市が協力して進めるということで、例えば市街地整備は県よりも市が中心であるし、進行状況について長久手市は進んでいるが日進市や豊田市はまだ構想ということもある。重点を置いても中々どうかということはある。

また、地域政策課長が言われたように新しく加わってきた事項や、緑化フェアなどの

イベントの効果もあるので、軸足を交流人口に移していきたいとの発言があったが、こうした点についてはいかがか。

#### ○松宮委員

今の件にも関連するが、県立大学だけではなく愛知学院大学、淑徳大学、他の大学間でやっている事業は相当あり、長久手古戦場のまちづくりセンターか、長久手古戦場駅周辺に学生が集まって活動している。重点戦略にある大学連携や観光交流、街づくり活動であり、⑤の沿線大学と協働した地域づくり、⑧のリニモ体感ツアーやイベント、⑨の観光モデルルート、⑩の公共交通の利用促進など、全部横断するような活動で、既に学生が動き出しているものがある。学生が主体となって動いているので、知っていただければと思うし、大学側も力を入れてやりたいと考えているので、こうした取組を重点的に進めていければ大学側も関わっていけるかなということがある。

その際、本編 16 ページにリニモテラス構想とあり、施設ができるのはもう少し先になることは承知しているが、学生達がリニモテラス構想に向けたインフォーマルな会議を淑徳大学の学生中心に結成しており、施設ができる前に大学間でネットワークを作っていこうという活動を毎月のようにやっている。そこで、こうした活動を入れていただければいいかなと個人的には思っている。16 ページのリニモテラス周辺 1 km 圏内は愛知学院大学、名古屋外大ということになっているが、リニモ沿線の愛工大も県大も芸大も淑徳もリニモ沿線にあるという一つの縁で長久手古戦場あたりを拠点に集まっており、リニモテラスで色々なことができ、情報が集約でき、活動拠点を作れば良いのではないかと検討している。それは、リニモ沿線地域づくりの大学との協働ということで、地域とのつながりのベースができるかなということである。

そこで、リニモテラスをどういうように作るかというより、重点項目を有機的に横断的につなげるような形で、長久手古戦場駅で実際に施設ができる前にも何か事業や立上げのような活動ができると、これまで蓄積されてきたことをさらに新たな重点プランにつなげて進めていけると思う。

今年中に一つ事業をやらなければいけないと危惧しているのは、大学生は卒業してしまうものなので、3年後にこうできますよといっても、今頑張っている学生はまずいない。そこで、毎年必ず何かを継続して、施設ができる前にも古戦場で大学間の活動をできるようにしたい。今かなり盛り上がっているし、県立大学のメンバーも増えているので、これをつなげるというか、活かすようなことを、私どももやらなければならない。何かそこに文言とかを入れていただければ、関わりやすくなると思うので、ご検討いただきたい。

#### ○瀬口委員長

ご指摘は 2 つあって、リニモテラス構想の中に、リニモ沿線 1 km 圏内にこれこれの大学はあるけど他の大学の名前がないので、さらに沿線にはこれこれの大学がありますという文言の修正はあるかなと思う。また、リニモテラスのキックオフのようなことを主要施策の中に何らかの形で入れるのか、入れなくてもできるのかということ。

## ○長久手市

距離的な理由で記述されていない大学については、ご指摘の主旨を踏まえて事務局と相談するが、記述しても長久手市としては良いかなと思う。キックオフイベントといったものは、リリモテラス構想の中で行うのが適切かどうかということはある。

なお、すでにリリモテラス公益施設整備基本計画の策定委員会の中に、リリモ沿線合同大学祭実行委員会の代表の方や各沿線大学の先生、県立大学では地域連携センター長、また市民公募で当会議の島田委員も入って検討してもらっているところなので、素地はあるし、インフォーマルな方が良い部分もあるのではないかと思うので、記載できるかどうか含め、持ち帰って検討したい。

## ○石黒委員

失礼だが、長久手市が中心のプランであり、それ以外の市が実行する部分が見えてこない。先ほどのリリモテラスにおいても、すべて長久手市に、という流れできている。豊田市、瀬戸市にも何かしら構想はあるだろうし、それぞれの駅もあるので、長久手市の駅を中心にやる、この5年間はこうやりますという方式であれば、その方向を出した方が良い。どれを重点にするのか、優先するのかという話に戻ってしまうが、まずは現行のテラス等を中心にやっていく、区画整理等の土地を整備すると順番を決めないと、いつやれるのかということも見えてこないと思う。

沿線市にはそれぞれの役割があるはずなので、もう少しプランの中に落とし込みをした方が良い。

## ○瀬口委員長

リリモ沿線の全体の関係市との街づくりという視点で、もう少し強調できないかというご意見であった。

## ○島田委員

前回の会議での私の意見も取り入れていただき、とても完成度の高いプランだと思う。細かいところだが、この中に沿線づくりという言葉と、地域づくりという言葉と、まちづくりという言葉と3種類出てくる。それぞれ言葉が持つ意味が少し違って、空間的なイメージでは沿線という言葉が一番強く、地域という言葉が次で、まちというと空間だけでなく人、担い手というものが入ってくることになるかと思う。ただ、タイトルを見ると、地域づくりという言葉も出てきて、沿線という言葉も出てくるが、まちとか、まちづくりという言葉は出てこない。

私は前回の会議で、全部ひっくるめた意味で「交通まちづくり」というキーワードを入れたらどうかと言い、それは使わないということは結構だが、今の石黒委員のご発言にもあったように空間的なイメージが元々強いので、あえてそこに沿線という空間のイメージが強い言葉を強調するよりも、柔らかく「まち」と、担い手のイメージを意識した言葉をもう少し強く謳っても良いのではないかとイメージを持った。

また、松宮委員も言われたことと関連するが、長久手古戦場駅周辺の大学は勿論、私達のイベントには沿線とは関係のない愛知大学の学生が2名参加している。一人は一宮

から来てくれており、ネットワークのつながりで広がってきているので、そういうことから空間的なイメージを強く出さないほうが良いのではないかとというのが一つ。

もう一点は、16 ページのリニモテラス構想についてだが、先ほど長久手市から話があったように、リニモテラスの委員会は地元であれこれやっているが、誤解を生じないために、こういう文章にしたらどうかという提案がある。16 ページの（リニモテラス構想の推進）の4行目、「そこで、」の後は、「大学連携、観光交流、多文化共生、子育て支援を主なテーマとする公益施設をはじめ、住民の日常の暮らしを支え訪れる人をもてなす空間としてリニモテラスを整備し、市民、大学、学生などによる活動推進するなど、シンボルとなる新たな活動拠点を整備していく」としてはどうか。参考にしていただきたい。

次に、18 ページについて、公園西駅の整備をしていただき、公園西口も作っていただいたが、現地を見るとリニモの高架下が空いている。地図では道路用地とあるが、区画整理事業では整備をする予定はない場所であり、また、夏場は草が生えていただけで、何か有効活用してほしいので、どこかにその記載が入れば良いと思う。

それから、観光交流について、何とか広域連携をしていこうというのは結構だが、リニモ沿線上で、外国人のお客さんを含め広域連携の観光客をどこまで呼べるかという現実的なところはあり、観光とか交流も新しいスタイルを考えていく必要がある。私は、「ついで観光」とか、「ちょこっと観光」だとか、「プラスアルファ観光」とかで、1日ここへ来てもらうことは期待できなくとも、ついでにちょっと来ていただく、という観光なら狙えると思う。そういった新しい形も検討するということが読めるようになっていると良いと思う。

#### ○地域政策課

1 点目の言葉の使い分けについて、明確に定義付けてはいないが、元々この構想の出発点が、調整区域にいかにかに人に住んでもらうかという開発が中心である。乱開発を防ぎ、豊かな自然を残していくが、定住人口を増やすために駅周辺の1 kmだけは都市的土地利用をするという考えで進めてきたので、かなり沿線に付随した言い方になると思う。

ただ、今回のプランは交流人口に軸足を置こうというもの。石黒委員のご指摘もあったが、土地面積は長久手市が大半、構想の6 駅のうち5 つは長久手市なので、どうしても瀬戸市、豊田市、日進市が関わりづらいということはあるが、今回のプランは観光等の交流人口が中心なので、姿勢としては、これまで以上に瀬戸市・豊田市・日進市に積極的に関わっていただく。

また、「ちょこっと観光」といった言葉を使うかは別にして、広域観光ということで、リニモ沿線だけで完結するのではなく、愛知県の他の地域と連携して一角を担うという考え方であるので、ベクトルは島田委員の考え方と同じである。言葉ではっきり書くかどうかは検討させていただく。

#### ○瀬口委員長

あまり空間概念を外してしまうと、乱開発や、環境万博はどこへ行ったかという話になるので、その辺は外せない。長久手市のまちづくりにとっても、良好な住宅地を作っ

ていきたいという意向があると思うので、今はその流れできているということ。

以前、名古屋市が着地型観光ということで、愛・地球博記念公園のイルミネーションと、名古屋港のイルミネーションと、栄のテレビ塔をセットにした夜のツアーを催したこともあるので、色々な切り口を見つけられれば、瀬戸市や豊田市と連携した広がりのある観光という切り口で切り込めるだろう。先ほど石黒委員が指摘した点にもつながる。

○愛知県公立大学法人清水総務部長（河合委員代理）

本学では、県芸大・県大外国語学部教員が合同で、県立大学の留学生を常滑に連れて行き、常滑の観光をPRするスマートフォン型のHPを作成する試みを行っている。

施策の8番目に「歴史や文化・芸術関連施設の連携イベントの実施等」、10番目に「留学生等と連携した外国人旅行者へのPRツールの検討」という項目があるが、こういう具体的な動きは大学も行っているので、この施策を実現するには留学生もぜひ活用いただきたい。また、17ページには古戦場公園の再整備ということで、長久手の歴史という素材を活かす良いタイミングなので、そういうところでも留学生を活用いただけるとありがたい。

○瀬口委員長

共生という言葉も入っているので、留学生を含めた交流、参画も考えられると思う。

○亀倉委員

リニモテラスだが、先行して何か活動をスタートさせてもよいのではないかという印象を持った。イオンが2016年末にオープンした後、2017年に機運を調整していくような意味で、例えば着脱式のテントを張ったりして、イベントなど何かの折に学生が集まれるような機会を設ければ、先ほど松宮委員が言われたことも可能であると思う。箱物ができたから、さあ入ってください、ということではなくて、機運ができた上で作られました、というのも一つの持っていきかたかなと思う。

○瀬口委員長

重点プラン⑩「国機関等の研究施設の誘致」の項目について、新聞では文化庁や消費者庁など国の機関を地方へ出すような議論があると載っていた。県全体で色々なことを考えているとは思いますが、この沿線地域についても、進めて欲しい。

また、豊田市との関係といえば愛環がある。愛環とリニモが機能する、そして名鉄とJR中央線がくっつくような、交通ネットワークができてくるといいと思う。リニモ沿線が中心になるが、交通ネットワークを意識して広い視野で進めて欲しいと思う。

なお、コミュニティバスの記載もあるので、今日お越しの名鉄バスにも、乗降客は増えているのか、利便性はどうか、というネットワークに是非参画していただきたいと思っているので、よろしく願います。

○亀倉委員

「住みたくなる・訪れたくなる」という用語があるが、誰をターゲットとして住んで



欲しい、訪れて欲しいと考えているのか、そして、想定されるターゲットに対して、どのような価値や魅力を提示していくことをイメージしているのか、という事がブランディングを考えていく上で大事なのかと思う。リニモ沿線の地域づくりは、駅から1 km、2 kmといった考え方では長久手市が中心になってくるのは当然だが、いくつかの関連する市や県のキーワードをもう少し展開していくことによって、ゾーニングというか、方向性を作るというのも一つの持っていく方だと思う。

#### ○地域政策課長

住んでいただく人、訪れていただく人について、我々の方でターゲットを定めていたということはない。この地域の定住人口を増やす、交流人口を増やすということで、特に交流人口については、県は観光に力を入れているので、国内外を問わず様々な方に訪れていただくという想定をしていた。

ブランディングということでは、まさにこの地域はリニモというのが一つの大きなキーワード。観光の目玉として、リニモそのものが観光になりえるし、それにつながったリニモ沿線ということで、リニモという言葉を売り出していくことを引き続きやっていくことを考えている。

#### ○瀬口委員長

今までの議論では、人口急増期の日本みたいではなく、急増急減しない、ある程度人口構成のバランスのとれた形で増えていって欲しいということ。コントロールは中々難しく、区画整理の場合は区画の大きさ、民間マンションだったらマンションの部屋の大きさ、価格などを操作できるかはわからないが、できるだけ集中しないように考えないと、今の多摩や千里のニュータウンみたいになってしまうので、その轍を踏まないようにということであった。長久手市、日進市も考えていくと思うので、理論的に考えていただいて、その上で、ライフスタイルを提示して、子育てしやすいとか、シニアも住みやすい、シニアの場合は広い家に、若い人はある程度のステータスの集合住宅に住んでいただければなどと、詰めてもらえれば良いと思う。

やみくもに人口を増やす、交流人口を増やすというのではなく、星野リゾートの社長が言っていたが、外国人の交流人口は日本人観光客の1%にも及ばないのだから、外国人、外国人と騒いで、日本人を忘れたら駄目だということで、ベースはそういうところがあったることということによろしいか。

#### ○地域政策課長

ご指摘のとおり、国内の観光客がベースになると思う。ただ、今世間で騒がれている外国人観光客を呼び込む施策についても、しっかり PR していきたいと思う。

#### ○松宮委員

今のご提言に関連し、実際にこれから何ができるだろうかということで、せっかくなので我々も何かやろうかなと思っている。

1つは、数年前にリニモネットの島田委員にお世話になり、こちらの予算を使わせて

もらい、学生がリニモや N - バス、愛環のアクセスについて、何分かかるとか、この時間は乗り換えできないといったことを調べたことがあり、もう一度それをやった方がいいと思っている。それは、アクセスだけでなく、公園西駅から歩いて行けるか、道路が分かるか、ござらっせまで行けるかという基礎データを学生と一緒に、この大学参加という形で調べていこうかと考えている。

もう1つは、さきほど清水委員が言われたことで、留学生が観光をPRする取組をやっているが、私達も常滑とか新城とかで、肝心のリニモ沿線ではやっていない。ここで何ができることをやろうかなと考えている。

もう1つは、観光交流ということと言うと、すでに学生が色々なイベントのために商店や事業所に広告を取りに行っ、様々なつながりがあるので、これはすぐできることだが、卒業する前にそういう情報を集約することを大学として、あるいは大学間の活動としてやれればと思う。そういったことをご提案いただいたリニモテラスのプレイベントといった形で具体化していきたい。今後の展望として、やりたいことを表明させていただいた。

#### ○瀬口委員長

今日は重点プラン 2016-2020 の方向性を確認し、ある程度ハード事業は進捗しているということがあって、地域の学生さんや大学の先生方が参加してくれるなど、色々な参画でソフト事業がある程度当初に比べれば定着してきたというのがあるので、これから少しソフト的なところ、イベント的なところにも軸足を移しながら、この地域づくりを進めていきたいということだったかと思う。

そういう意味では、少しキックオフになるようなものについてもご意見を頂いたと思うので、事務局の方は参考に進めていただきたいと思います。

### 3 その他

次回のリニモ沿線地域づくり会議は、来年夏頃に開催する予定。

(閉会)